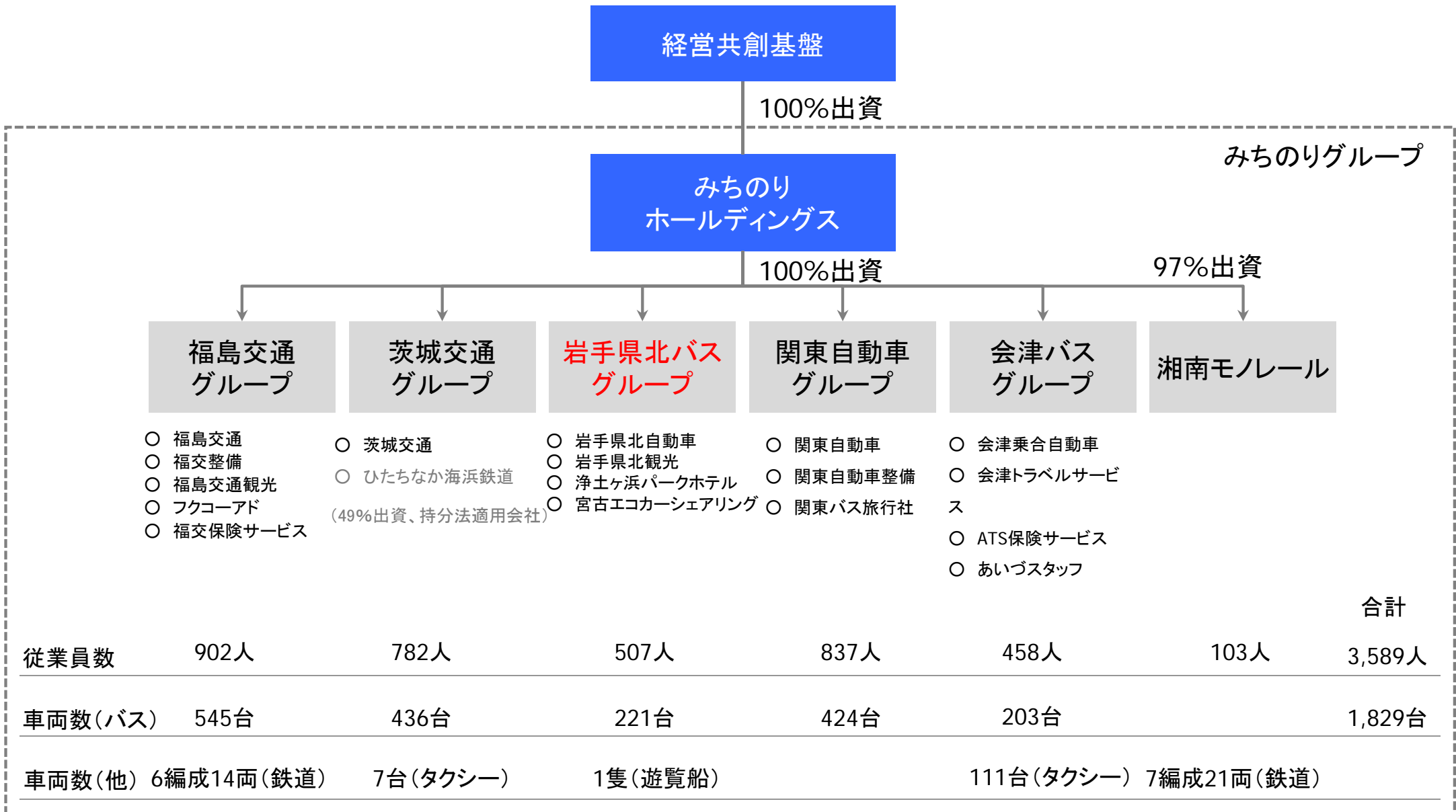


東北自動車道・岩手山SAを活用した 地域活性化への取組提案 [岩手県八幡平市]

2016年3月17日



岩手県北自動車
Northern Iwate Transportation Inc.,



八幡平市の現状



- 旧西根町・松尾村・安代町が平成17年に新設合併
- 人口：27,612人（平成27年1月31日現在／過疎地域指定）
- 高齢化率：31.9%（平成22年国勢調査）
- 面積：862km²／人口密度：32人/km²
- 中山間地に集落が広がり、公共交通の運営は難しい状況

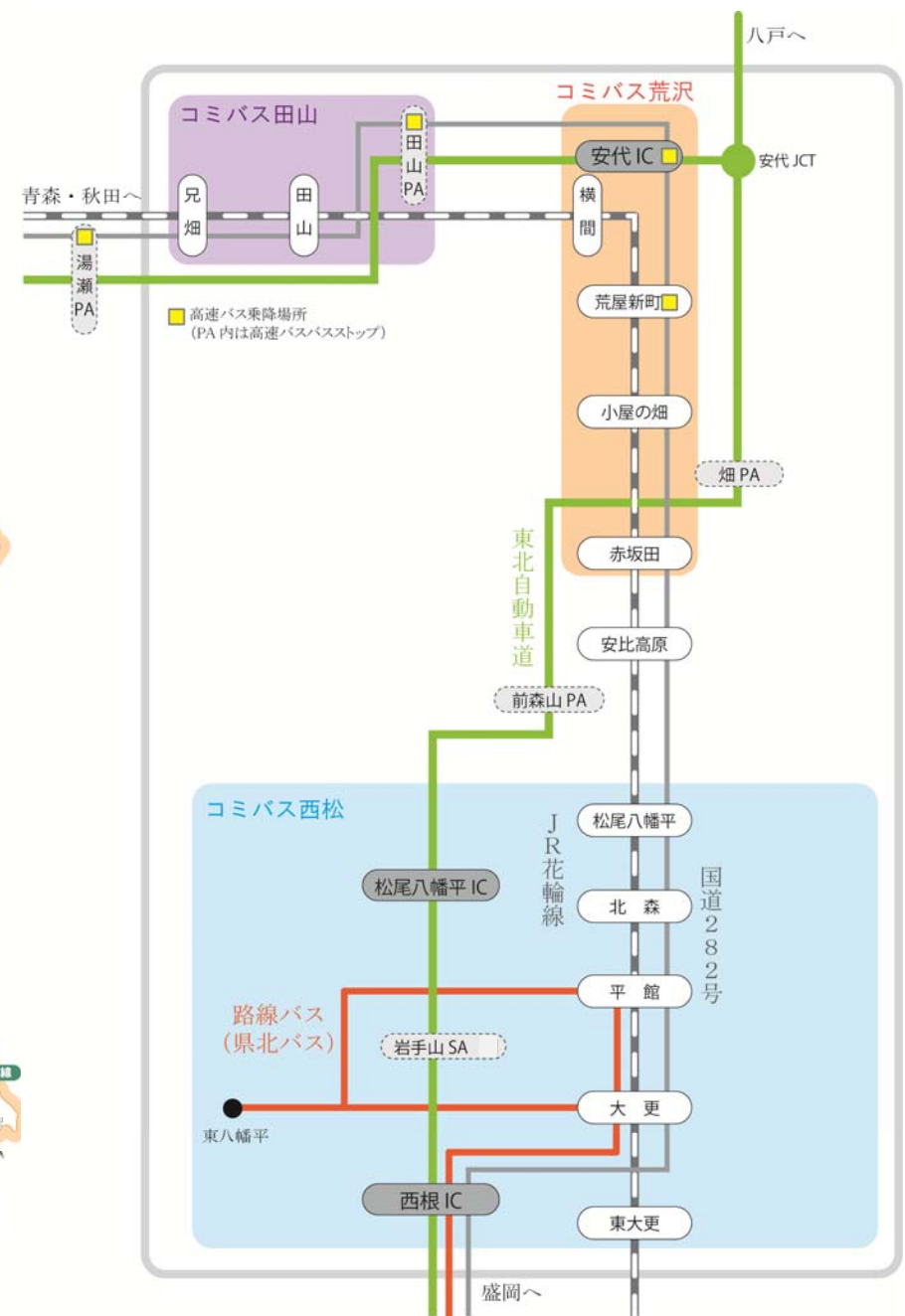
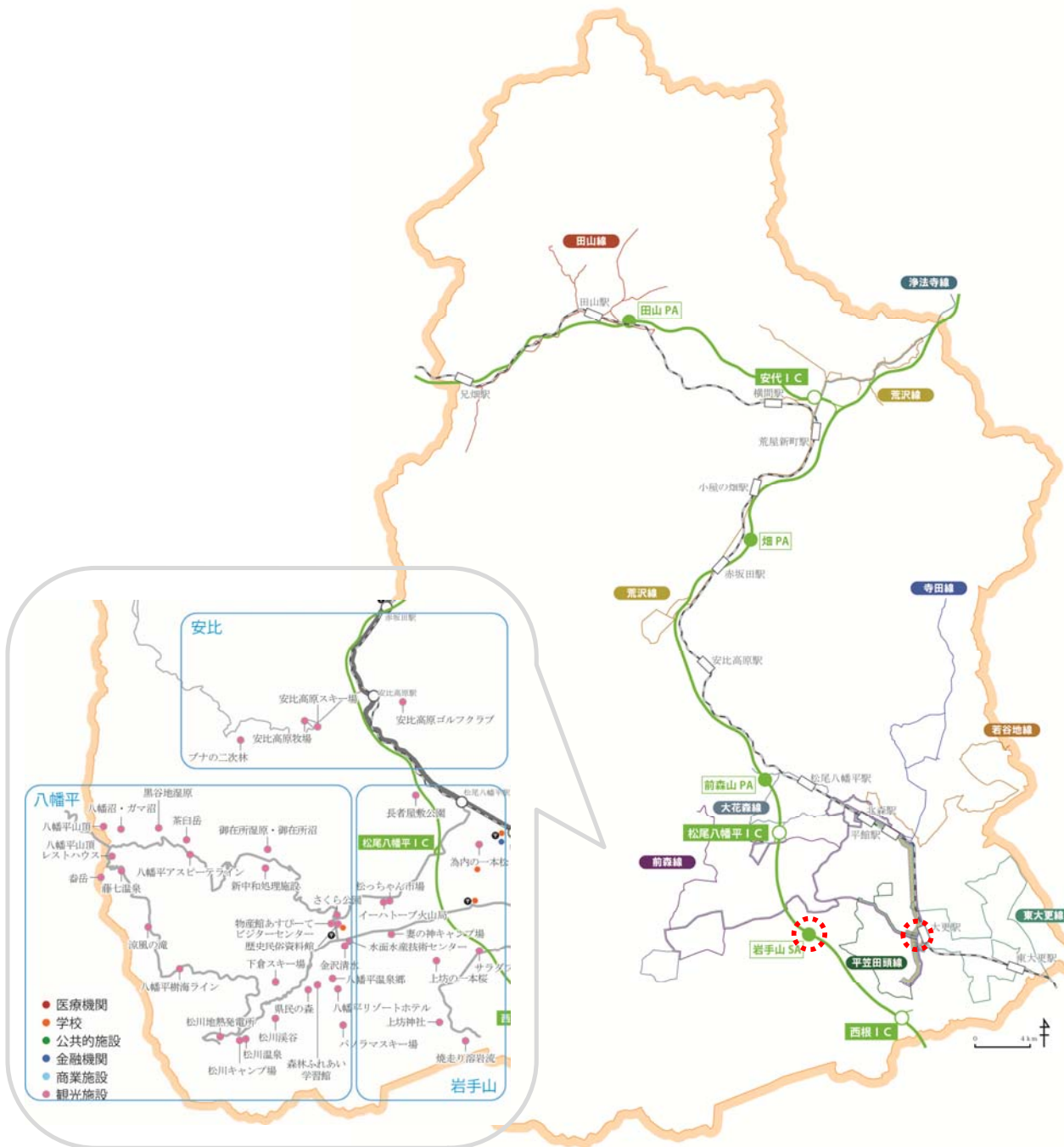
公共交通の現状

- ◆ 鉄道：JR花輪線（盛岡市～大館市／八幡平市内12駅）
- ◆ 高速バス：東北自動車道、八戸自動車道を運行、北東北と関東を結ぶ路線（22路線・142便/日）
- ◆ 路線バス：地域間幹線6系統（八幡平市～盛岡市）・コミュニティバス：9路線（八幡平市内）

大更駅（花輪線）周辺のまちづくり計画

- 目的：大更駅を中心としたコンパクトなまちづくりを目標に、基盤整備の実践、商業の活性化、駅周辺の東西都市軸の形成や公共施設など、賑わいの創出と人的交流を図る（平成32年度～）
- 事業内容：駅東西自由通路・駅舎整備、駅前整備（鉄道・バス・タクシー等のターミナル整備）、居住・医療・商業機能の立地

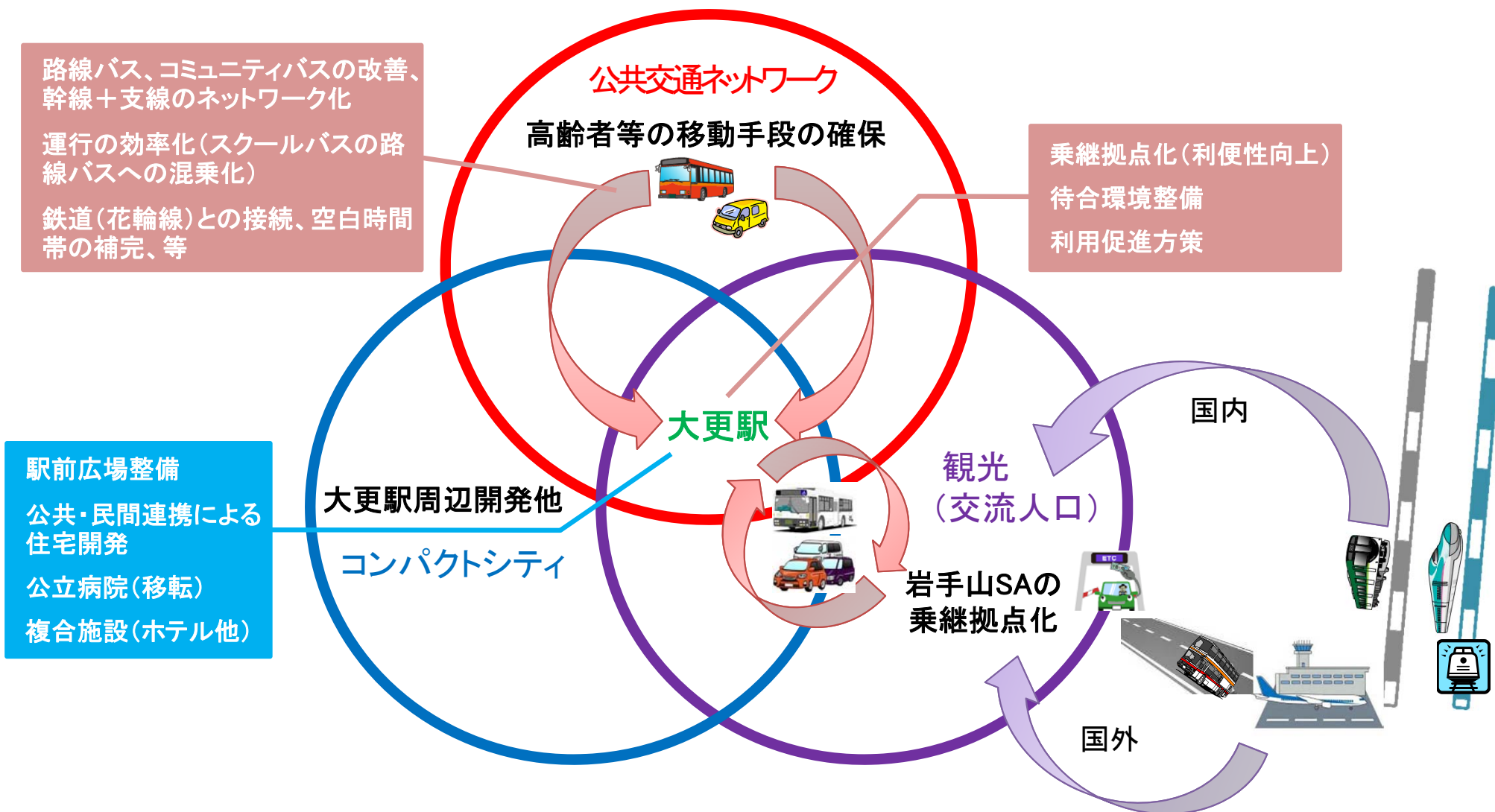
八幡平市の交通ネットワーク



八幡平市地域公共交通網形成計画の基本的な方針



- ① 公共交通ネットワークの構築: 市民(高齢者、通学生他)の日常生活(おでかけ)の移動手段
- ② コンパクトシティの推進: 大更駅周辺のまちづくり計画との連携(にぎわい・結節拠点化)
- ③ 観光施策との連携: 鉄道(花輪線/新幹線アクセス)、高速バス(岩手山SA拠点化/空港アクセス)





八幡平市では、国土交通省(道路局高速道路課)「高速道路の休憩施設を活用した更なる地域の活性化に向けた取組に関する提案募集」において、岩手山SAを結節・乗継拠点化し、市民及び観光客等の利用促進と地域の活性化を目指すこととしている。

事業提案の概要

- ① 周辺道路と駐車場を整備し、SAとの間を結ぶウェルカムゲートを設置することによって市民のSA利用を促進する(レストラン利用、物産イベント参加・購入等)。
- ② 岩手山SAから八幡平温泉郷などの周辺観光施設へのアクセス交通を確保(市内周遊バス・シャトルバスの運行等)することで、高速道ワンストップ利用客の創出を目指す。
- ③ 高速バスの停留所を設置することで、「東北道系統」と「八戸道系統」の相互乗継や、「八戸道系統」から「仙台方面系統」への高速バスによる乗継を可能とする。
- ④ いわて花巻空港や仙台空港からの高速バスを充実することで、海外からの観光客誘致を図る。
- ⑤ 市民が高速バスを利用しやすくなることで、盛岡方面のIC近くの商業・医療施設等へのアクセスを向上させる。

ウェルカムゲート設置と周辺道路・駐車場整備による市民のSA利用の促進



観光事業者・施設等と連携した誘客プロジェクトの企画・実施

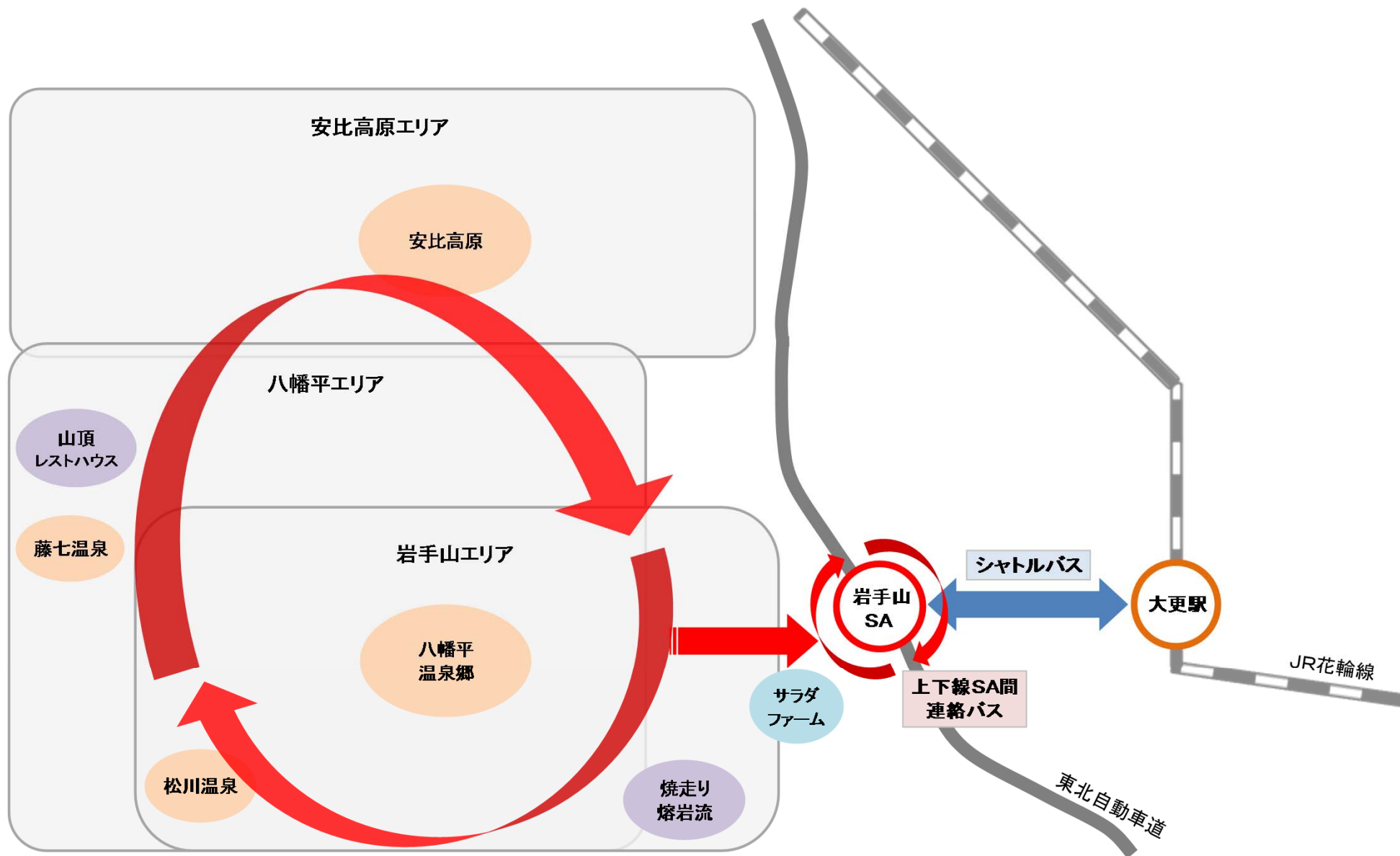
- 市民のレストラン利用
- 物産イベントの開催
- 地元の農産物や沿岸の海産物の販売(高速バスの活用)
- 一般道駐車場を活用した旅行ツアーの開催 他



高速道路利用者の八幡平地域への誘客による交流人口の増加



岩手山SAを基点とした市内周遊バス、シャトルバスの運行



バスストップ設置による東北道系統と八戸道系統の高速バスの結節・乗継拠点化



「東北道系統」と「八戸道系統」の相互乗継、「八戸道系統」から「仙台方面系統」への乗継イメージ



例

①八戸・久慈～岩手山SA～盛岡線
—— (乗継)
盛岡～岩手山SA～ 青森・弘前線

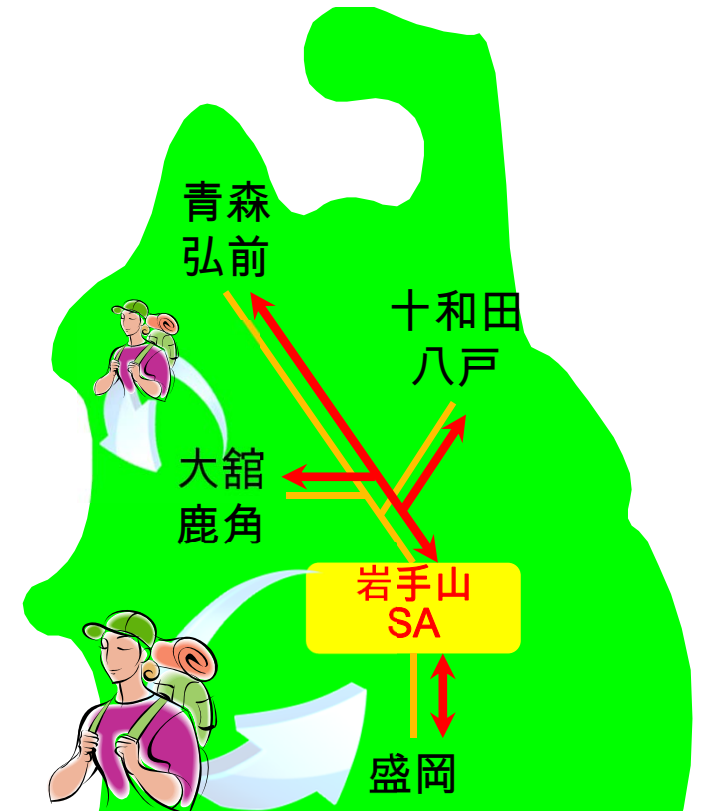
②八戸・久慈～岩手山SA～盛岡線
—— (乗継)
青森・弘前～岩手山SA～ 仙台方面

③八幡平市・岩手町の新規利用者

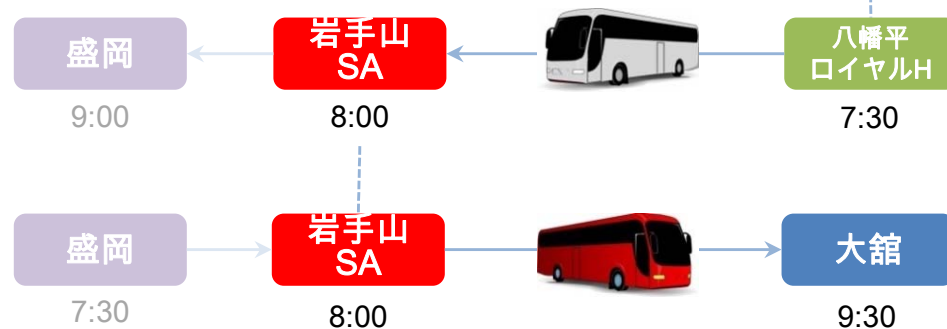
高速バスと市内公共交通の乗継による観光需要の創出イメージ



1日目



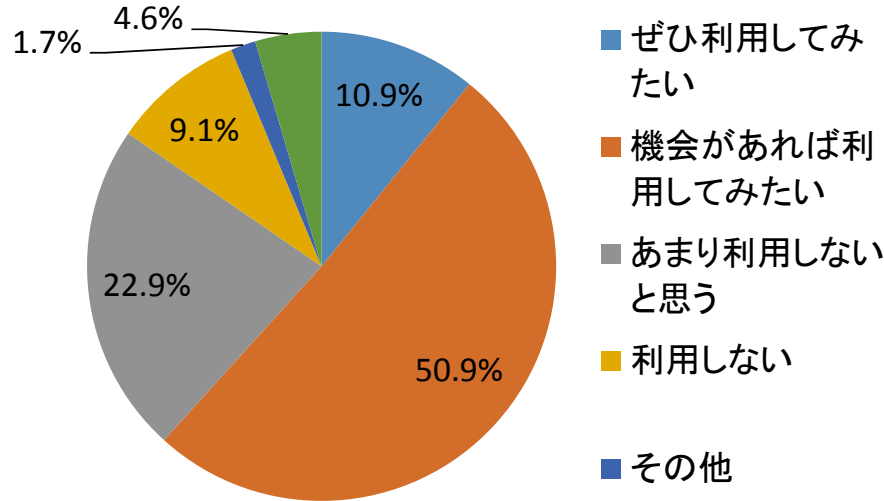
2日目



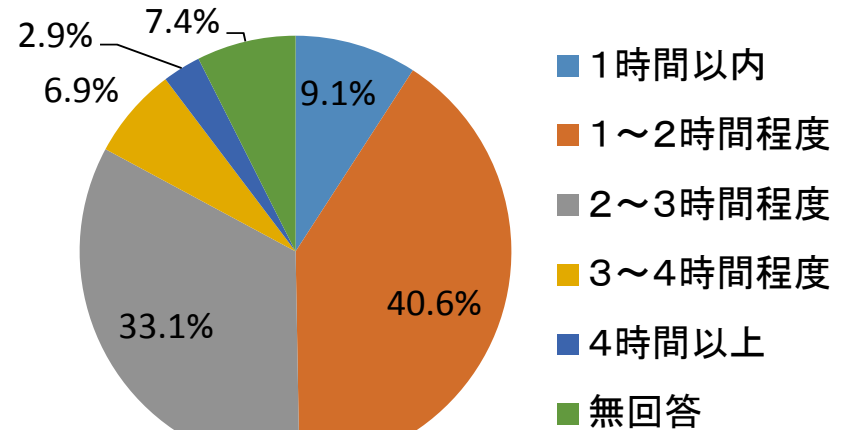
岩手山SAを通る高速バス利用者の市内周遊バスの利用意向(アンケート調査結果)



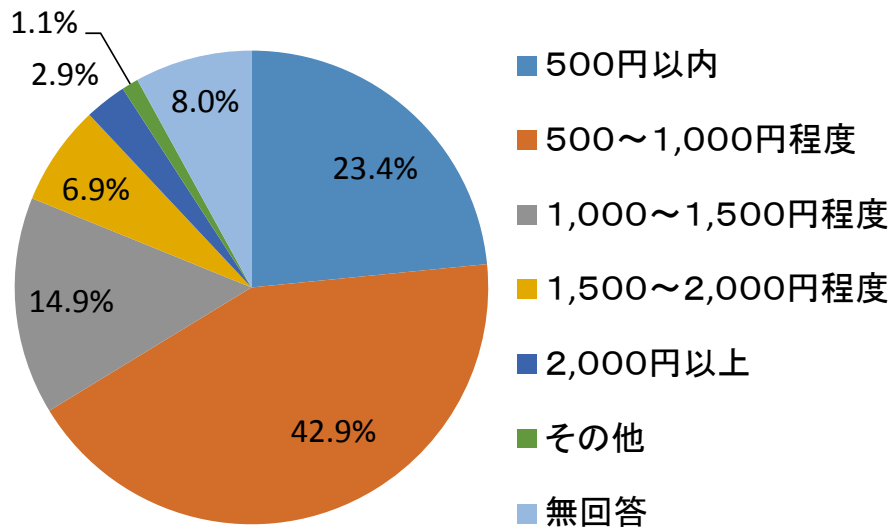
■ SA・PAを基点とした市内周遊バスの利用意向



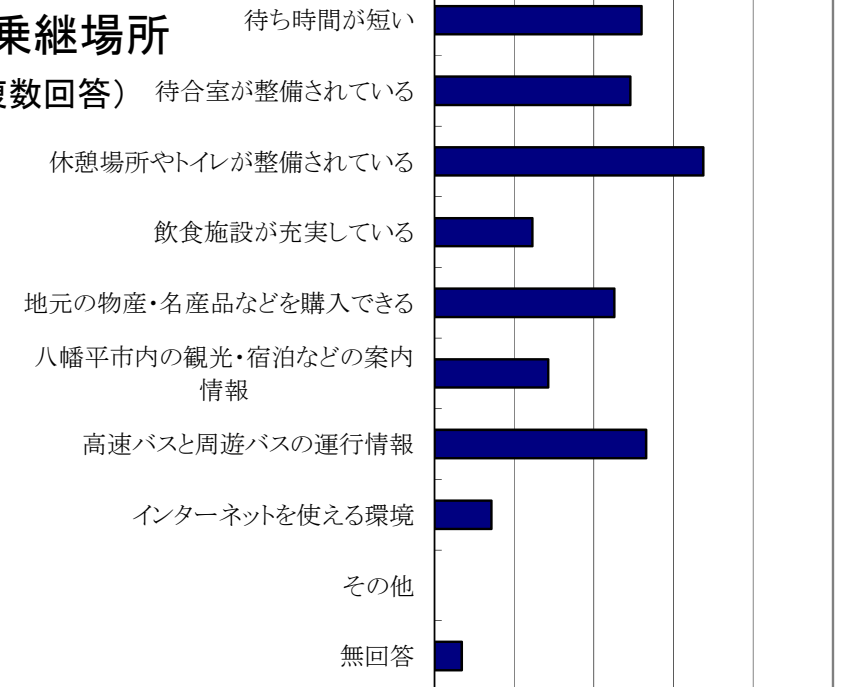
■ 市内周遊バスの所要時間



■ 市内周遊バスの片道運賃



■ 高速バスとの乗継場所の必要条件(複数回答)



ヤマト運輸との連携による貨客混載



バス業界

乗客数の減少 ⇒ 路線網の維持が困難
生産性の向上 が課題

物流業界

ドライバー不足等 ⇒ 物流網の維持が困難
物流の効率化 が課題

「貨客混載」によるメリット

- バス路線の生産性向上
- 物流の効率化
- CO2排出量の低減

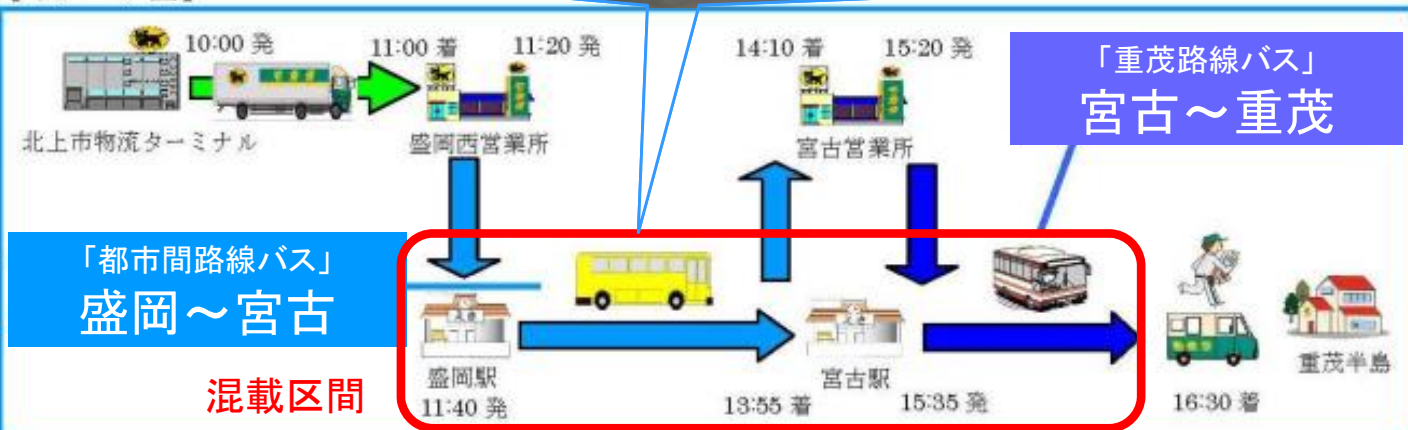


「ヒトものバス」の開発

- 後部座席に荷台スペースを確保
- 専用ボックスに宅急便を入れて輸送



【イメージ図】



※開始時は1日1便での運行となります